

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

令和元年度

事業報告書及び決算書

自 平成31年4月1日

至 令和2年3月31日



**EXPO'90**  
FOUNDATION

## 目次

### 事業報告書

#### I. 事業

- 1. 顕彰事業 . . . . . 9
  - (1) コスモス国際賞
  - (2) BIE コスモス賞
  - (3) 全国花のまちづくりコンクール事業
- 2. 助成・協働事業 . . . . . 11
  - (1) 調査研究、行催事等助成事業
  - (2) 花とみどりの復興活動支援助成事業
  - (3) 地域協働事業
- 3. 普及啓発事業及び国際交流事業 . . . . . 14
  - (1) 次世代育成事業
  - (2) 花育推進事業
  - (3) 都市緑化推進運動等への協力事業
  - (4) 普及啓発事業
  - (5) 国際交流事業
- 4. 調査研究・資料収集事業 . . . . . 21
  - 生物多様性等に関する調査

#### II. 庶務・管理

- 1. 理事会・評議員会等 . . . . . 24
- 2. 内閣府届出及び情報公開 . . . . . 25
- 3. その他 . . . . . 25

### 決算書

#### III. 財務諸表

- 1. 貸借対照表 . . . . . 29
- 2. 正味財産増減計算書 . . . . . 31
- 3. 正味財産増減計算書内訳表 . . . . . 34
- 4. 財務諸表に対する注記 . . . . . 37
- 5. 附属明細書 . . . . . 40
- 6. 財産目録 . . . . . 41

#### IV. 監査報告書 . . . . . 45

令和元年度

# I. 事業

自 平成 31 年 4 月 1 日

至 令和 2 年 3 月 31 日

## はじめに

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会（以下「協会」という。）は、国際花と緑の博覧会（以下「花の万博」という。）の「自然と人間との共生」という理念を継承し発展させることを目的に、各種事業を行っている。

令和元年度は、協会の中心的事業である「コスモス国際賞」関連事業をはじめ、助成・協働事業、普及啓発・国際交流事業、調査研究・資料収集事業を、一部新型コロナウイルス感染症の影響があったが、概ね計画どおり実施した。また、事業の選択と集中や事業間連携をさらに進めた他、広報の強化にも努めた。

### 1. 顕彰事業

#### (1) コスモス国際賞

花の万博の理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」（以下「コスモス賞」という。）の2019年（第27回）受賞者の選考及び授賞式等を次のとおり実施した。

また、2020年（第28回）の受賞候補者の推薦を国内外の推薦人に依頼するため、推薦状を発送した。

#### ア. 受賞者の選考等

コスモス賞委員会（以下「賞委員会」という。）及びコスモス賞選考専門委員会（以下「選考委員会」という。）を設置し、次の選考作業を行った。

#### (ア) 2019年（第27回）受賞者の選考等

- ・令和元年5月22日、5月30日に第1回、第2回選考委員会が開催され、  
2019  
年受賞者選考対象149件の推薦に基づき、慎重な選考作業が実施された。
- ・令和元年7月1日に第3回選考委員会及び第2回賞委員会が開催され、2019  
年受賞候補者にスチュアート・L・ピム教授（デューク大学（保全生態学））  
が選定された。
- ・選考の経緯及び結果は、令和元年7月22日開催の第102回理事会に推挙  
され、受賞者として決定した。また、同日午後、国内外の報道機関に対し  
て記者発表を実施した。

#### (イ) 2020年（第28回）受賞者の選考準備等

- ・令和2年1月22日に第1回賞委員会が開催され、2020年（第28回）受  
賞者の受賞者選考に対して選考方針及び今後の日程等について審議され  
た。

・国内外約 2,000 名の推薦人に対し、受賞候補者の推薦依頼を行った。

イ. 2019 年（第 27 回）コスモス賞授賞式及び晩餐会の開催

国内外からの賓客及び招待者約 370 名の参列のもと、授賞式を開催するとともに、スチュアート・L・ピム教授を囲み、賞委員会・協会関係者による晩餐会を行った。

(ア) 授賞式

日 時：令和元年 11 月 7 日（木）午後 3 時～5 時

場 所：いずみホール（大阪市中央区）

出席者：約 370 名

(イ) 受賞記念晩餐会

日 時：令和元年 11 月 7 日（木）午後 5 時 30 分～7 時

場 所：ホテルニューオータニ大阪（大阪市中央区）

出席者：25 名

ウ. コスモス国際賞受賞記念講演会

2019 受賞者 2019 年受賞者スチュアート・L・ピム教授による講演会を別表 1 のとおり開催した。

(別表 1)

	大阪	東京
日時	令和元年 11 月 10 日（日） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分	令和元年 11 月 13 日（水） 午後 4 時～6 時
場所	大阪私学会館講堂（大阪市都島区）	東京大学安田講堂（東京都文京区）
次第	受賞者紹介 モンテ・カセム（コスモス国際賞選考専門委員会委員・大学院大学至善館学長） 2019 年コスモス国際賞受賞記念講演 スチュアート・L・ピム 対談 スチュアート・L・ピム 宮下直（東京大学大学院教授）	受賞者紹介 林良博（コスモス国際賞選考専門委員会委員長・国立科学博物館館長） 2019 年コスモス国際賞受賞記念講演 スチュアート・L・ピム 質疑応答 林良博 スチュアート・L・ピム
参加者	約 110 名	約 400 名（うち高校生 190 名）
共催		東京都教育委員会
後援	農林水産省、国土交通省、文部科学省、	農林水産省、国土交通省、文部科学省、環

環境省、アメリカ合衆国大使館、日本生態学会	境省、アメリカ合衆国大使館、日本生態学会
-----------------------	----------------------

## (2) BIE コスモス賞

協会の存在及びコスモス賞の国際的なPRのため、平成19年度よりBIE(博覧会国際事務局(本部パリ))と開催国の万博協会が行う「BIE コスモス賞」については、平成30年度は、過去5回の効果検証に着手し、今後のあり方の検討を進めると共に、BIEと2020年ドバイ国際博覧会での実施に向けて調整を行った。

## (3) 全国花のまちづくりコンクール事業

花の万博を契機に「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして農林水産省及び国土交通省が提唱する花のまちづくりコンクールの推進協議会に参画し、第29回(2019年)花のまちづくりコンクールを実施した。

応募数：1,543件

入賞：農林水産大臣賞、国土交通大臣賞 各2点及び文部科学大臣賞1点をはじめ25点

表彰式開催日：令和元年10月24日(木)

場 所：東海大学校友会館(東京都千代田区)

主 催：花のまちづくりコンクール推進協議会(当協会、(公財)日本花の会、(公財)都市緑化機構、(一財)日本花普及センター)

## 2. 助成・協働事業

### (1) 調査研究、行催事等助成事業

花の万博の基本理念「自然と人間との共生」の継承発展・普及啓発につながる調査研究や活動並びに被災地復興を支援し、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、助成事業を実施した。

調査研究、活動・行催事分野については、助成率をこれまでの1/2から3/4に変更した。被災地の復興活動支援については、東日本大震災の被災6県(青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉)、熊本地震被災2県(熊本県、大分県)に加えて、平成30年7月豪雨被災地も対象地域として、阪急電鉄株式会社からの寄附を充当して実施した。

ア. 令和元年度は、別表2の46団体(採択47団体のうち1団体辞退)に対し、13,735千円の助成を行った。

(別表 2)

	助成団体名	事業名
調査研究	洞爺湖生物多様性保全協議会	洞爺湖ウチダザリガニ捕獲調査事業
	NPO 法人地域づくり工房	「冷風の丘」風穴植生調査と啓発資料の作成
	NPO 法人おおいた環境保全フォーラム	稀少種カワツルモを指標とし瀧湖・龍神池の再生事業
	神奈川トンボ調査・保全ネットワーク	絶滅危惧トンボ類の保全手法の開発普及と現状把握調査
	NPO 法人森林の風	稀少蝶再生をめざす里山の土壌調査・改良、育苗・植樹
	琵琶湖博物館はしかけグループ虫架け	滋賀県内の昆虫類の分布及び生態調査
	ごもくやさん	定点観測カメラによる野生保護動物の生態調査
	NPO 法人樹木研究会こうべ	「都市アメニティ機能を高める公園樹木の保全」
	(公財)農業・環境・健康研究所	シバザクラ園地における生育障害の発生実態と防除対策
	NPO 法人知的コミュニケーション研究機関連合	市原市における粘菌生息地の特定と生息条件
	群馬野外生物学会	自然環境にかかる調査研究
活動・行催事	霧ヶ峰草原再生協議会	霧ヶ峰高原における草原再生モデル事業
	カタツムリミュージアム「ラセン館」	カタツムリ博物館の開館と普及啓発活動(出張展示)
	NPO 法人京おとくに・街おこしネットワーク	花と緑の街おこし事業
	NPO 法人四国自然史科学研究センター	四国の特定外来生物ソウシチョウの防除と現状の公開
	中生代植物研究会	絶滅危惧の中生代古植物研究者の育成アウトリーチ活動
	2019 年度 SPSD 国際会議実行委員会	空間計画と持続可能な開発に関する国際会議 2019
	NPO 法人はちろうプロジェクト	大瀧村での外来生物の駆除と在来生物の保全活動
	ミツバチサミット実行委員会	ミツバチサミット 2019
	NPO 法人野生生物を調査研究する会	環境学習用副読本「生きている加古川」制作・配布事業
	(公社)園芸文化協会	江戸の花プロジェクト・園芸文化を守るうセミナー
	NPO 法人白神自然学校一ツ森校	白神山地のブナの森の動植物の探検観察会
	NPO 法人ひらかた市民活動支援センター	子どもの冒険遊び場プレーパークを支える人材育成事業
	NPO 法人地球温暖化対策地域協議会エコネットあんじょう	生き物共生社会づくり
	江南の藤保存会	緑と藤棚の自然環境保全・保護プロジェクト
	(公社)日本植物園協会	東京五輪応援プロジェクト「大江戸ハーブ物語」
	やしろの森公園協会	さとやま 根っ子フェス 2019
	(一社)フリンジシアターアソシエーション	地球を学ぶ！子ども環境劇場 in 京北 2019
	逢瀬さくらの里	続)新名所づくり「出逢いのさくら通り」事業

復興活動支援	福興浜団	菜の花迷路一般開放に向けた菜の花畑整備
	坪井川遊水地の会	坪井川遊水地桜並木プロジェクト
	NPO 法人しんせい	前向きで明るい福島を創造する花の環倶楽部
	NPO 法人 Green Fields	つながる花と緑でおもてなし
	はなあそび	福島に住む子供たちを対象にした花育活動
	NPO 法人九州バイオマスフォーラム	災害に強い森を作る・森を学ぶ薪づくりワークショップ
	NPO 法人里山再生と食の安全を考える会	花とみどりの苗木の植栽と種蒔き
	浦浜・泊地区連絡協議会	浦浜・泊地区浸水地域の緑化事業
	NPO 法人勿来まちづくりサポートセンター	花と育む高校生と地域との交流支援事業
	肥後朝顔涼花会	肥後朝顔の栽培環境再整備と普及
	NPO 法人パワーアップ支援室	花・陽だまり・心の和みプロジェクト(最終章)
	Noroshi 西原	ガレキと一輪の花プロジェクト
	熊本市立龍田小学校 PTA	小・中学生による花いっぱい運動による地域交流活動
	弓削校区健康まちづくり委員会	まちあるき 31～花と緑で元気になろう～
	芝桜 de 花のまちづくり in 浦安	芝桜 de 花のまちづくり in 浦安
	ナチュラルギフト	花とみどりの元気ひろば
山森沢桃源の里管理運営委員会	里山公園駐車場並びに景観整備事業	

イ. 令和 2 年度実施分については、次のとおり助成団体を決定した。

(ア) 公募及び審査

公募期間：令和元年 8 月 1 日（木）～9 月 13 日（金）

応募数：71 件（調査研究 14 件、活動・行催事 38 件、復興活動支援 19 件）

審査期間：令和元年 10 月～令和 2 年 1 月

(イ) 助成対象団体の決定

助成事業審査委員会の結果は令和 2 年 1 月 29 日付けで理事長に答申され、令和 2 年度の助成対象 28 件（調査研究 7 件、活動・行催事 13 件、復興活動支援 8 件）を決定した。その後、第 104 回理事会（令和 2 年 3 月 27 日）に報告を行った。

(2) 地域協働事業

地方公共団体・企業・ボランティア・住民等と協働し、次の事業を実施、企画した。

ア. 歴史の道みどりの拠点づくり事業

街道を人間の生活と自然の接点と捉え、緑あふれる空間を創造することにより、「自然と人間との共生」という理念の継承発展につなげる本事業は、大阪府泉大津市での奈良県桜井市西之宮区 1 件を実施した。

イ. 花と緑の交流広場「自然と人間との共生フェスタ in 和歌山」

助成事業の成果の波及及び地域で活動する団体との交流を目的に、令和 2 年 2 月 23 日（日）、24 日（月・祝）で、和歌山県田辺市で地元団体である南方熊楠記念館、南方熊楠顕彰会と共催で、自然と人間との共生フェスタ in 和歌山を開催する準備を進めてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。

3. 普及啓発事業及び国際交流事業

(1) 次世代育成事業

協会に関係する学者、知識人等を講師に招き、児童を対象に開催している本事業は、屋外での自然観察教室（フィールド型セミナー）、小学校講師派遣（講師派遣型セミナー）を引き続き実施した。

また、次世代育成とマスコミとの連携強化のため、毎日新聞大阪本社との共催による校庭・園庭における生態園づくりを実施した。

ア. 自然観察教室「コスモスセミナー 集まれ！生き物好きな子供たち 2019」

開催日：令和元年 8 月 17 日（土）～8 月 19 日（月）

場 所：兵庫県立奥猪名健康の郷（兵庫県川辺郡猪名川町）

講 師：谷 幸三（一般社団法人淡水生物研究所理事）

三橋 弘宗（兵庫県立人と自然の博物館主任研究員）

稲本 雄太（大阪市立自然史博物館友の会評議員）

参加者：近畿圏の小学校 4～6 年生 31 名

共 催：兵庫県立人と自然の博物館

イ. 小学校講師派遣（講師派遣型セミナー）

小学校への出張授業を別表 4 のとおり 20 校に対し、実施した。

(別表 4)

年月日	学校名、学年、生徒数等	テーマ	講師	
令和元年	6月10日	柏原市立国分東小学校 3、4年生 28人	昆虫の生態・川の環境	谷幸三((一社)淡水生物研究所理事)
	6月11日	枚方市立殿山第二小学校 3年生 63人	植物のはたらき	渋谷俊夫(大阪府立大学 准教授)
	6月24日	大阪市立神路小学校 3年生 67人	動物の命について	長瀬健二郎(元天王寺動物園園長)
	6月25日	大阪市立田島小学校 3年制 32人	植物のはたらき	渋谷俊夫
	6月26日	豊中市立豊高北小学校 4年生 108人	まちの景観・歴史	増田昇(大阪府立大学名誉教授)
	7月3日	枚方市立西長尾小学校 4年生 102人	動物の命について	長瀬健二郎
	7月8日	池田市立秦野小学校 3年生 107人	昆虫の生態・川の環境	谷幸三
	7月17日	大阪市立加賀屋東小学校 4年生 74人	生き物と食べ物	佐藤洋一郎 (京都府立大学文学部特別専任教授)
	9月2日	アサンプション国際小学校 3年生 61人	昆虫の生態・川の環境	谷幸三
	9月4日	大阪市立今津小学校 5年生 96人	生き物と食べ物	佐藤洋一郎
	9月5日	松原市立恵我小学校 3年生 72人	植物のはたらき	渋谷俊夫
	9月26日	堺市立浜寺東小学校 3年生 85人、保護者	昆虫の生態・川の環境	谷幸三
	10月10日	豊中市立庄内西小学校 4年生 39人	動物の命について	長瀬健二郎
	10月16日	八尾市立西山本小学校 5、6年生 88人	動物の命について	長瀬健二郎
	10月23日	大阪市立大桐小学校 3年生 172人	植物のはたらき	渋谷俊夫
11月27日	堺市立光竜寺小学校 3年生 20人	カタツムリの不思議な世界	河野甲 (カタツムリミュージアムラセン館代表)	
12月18日	大阪市立長吉南小学校 6年生 63人	動物の命について	長瀬健二郎	
令和2年	1月17日	東大阪市立枚岡東小学校 4年生 88人	昆虫の生態・川の環境	谷幸三
	1月29日	大阪市立豊里小学校 5年生 101人	昆虫の生態・川の環境	谷幸三
	2月17日	大阪市立北巽小学校 6年生 52人	生き物と食べ物	佐藤洋一郎

## ウ. 校庭・園庭における生態園づくり

毎日新聞社と共催し、生態園(ビオトープ)を別表5のとおり3校に設置した。

また、前年に設置した小・中学校においては、生物の観察の様子や記録は毎日新聞紙面や毎日新聞ホームページで紹介された。

(別表 5)

実施校	所在地	実施内容
守口市立さつき学園	大阪府守口市	大阪府の義務教育学校(小中一貫)。地域住民と協働して校庭の廃材を除去・土壌改良を行い、植栽しバタフライガーデンとする。

大淀町立大淀希望ヶ丘小学校	奈良県大淀町	老朽化した池の整備を行う。吉野川の植物を移植し、地域の特徴を活かした生態園とする。地域からゲストティーチャーを招いた授業の計画もしている。
富田林市立喜志幼稚園	大阪府富田林市	小規模の池を園児、保護者とともに造成。池の造り方は園児たちの考えを尊重し、試行錯誤することで探求心、知的好奇心を高める。

#### エ. 鶴見緑地昆虫クエスト大作戦

幼稚園・保育園児とその保護者を対象とした「鶴見緑地昆虫クエスト大作戦」を実施し、自然と触れあう楽しさを親子で体験できる機会を提供した。

開催日：令和元年 9 月 23 日（月・祝）

場 所：花博記念公園鶴見緑地（大阪市鶴見区）

講 師：中峰 空（箕面公園昆虫館館長）

参加者：大阪市鶴見区および近郊の幼稚園児とその家族約 300 名

#### （2）花育推進事業

花や緑による情操教育を目的とした花育活動を推進する全国花育推進協議会に参画し、関係団体とともに講習会やセミナー等を実施した。

#### （3）都市緑化推進運動等への協力事業

「春の都市緑化推進運動期間（4～6月）」および「都市緑化月間（10月）」における「都市緑化キャンペーン活動」等を支援するため、都市緑化推進運動協力会に協力した。

#### （4）普及啓発事業

花の万博が開催された地元大阪において、理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し実施した。

#### ア. 大阪都市緑化フェア

花と緑あふれる豊かなまちづくりを進め、都市緑化に関する府民意識の高揚と知識の普及を図ることを目的に開催されている本フェアに参画、支援した。

開催日：令和元年 11 月 16 日（土）～11 月 17 日（日）

場 所：日本万国博覧会記念公園東の広場（大阪府吹田市）

来場者：約 85,300 名

主 催：当協会、大阪府、阪神造園建設業協同組合

#### イ. はならんまん

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された本事業に参画した。

開催日：令和元年10月19日（土）～20日（日）

場 所：花博記念公園鶴見緑地（大阪市鶴見区）

来場者：約33,000名

主 催：当協会、大阪市

#### ウ. みどりのまちづくり賞（大阪ランドスケープ賞）

緑によるまちづくりや、市民の花やみどりに関する知識、技術力の向上を図ることを目的とした第9回みどりのまちづくり賞に参画し、当協会会長賞等を授与した。

応募数：41件

入 賞：11件

表彰式・講評会開催日：令和元年11月1日（金）

場 所：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドームセンター）パフォーマンススペース  
（大阪市中心区）

来場者：約100名

主 催：当協会、大阪府、（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部

#### エ. 周年記念事業

##### （ア）万博の桜2025事業

2025年に開催される大阪・関西万博への期待感や機運喚起、関西の緑化環境の向上をめざす「2025本の桜」の植樹事業の事務局としてPR等の準備を進めた。具体には、1月29日には実行委員会を開催し、寄附サイトの開設準備やチラシ印刷等を開始した。

##### （イ）花の万博開幕30周年記念事業

1990年の国際花と緑の博覧会の30年目の節目として、当時の追想やこれまで当協会をはじめ各団体等が実施してきた理念継承事業の紹介を行う「メモリアル展示」及び、破棄されるチューリップの花びらで地上絵を描く「フラワーカーペット」を令和2年春に開催すべく準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大懸念により中止した。

オ. その他

(ア) 広報・報道活動

- ・コスモス国際賞の最新情報を掲載したパンフレットを作成し、授賞式等で配付した。また、2019年（第27回）受賞者の業績、コスモス国際賞の趣意、構成、授賞式及び記念講演等を取りまとめた報告書（変形A4判72頁）を作成（1,600部）し、国内外の関係者に配付した。
- ・各事業の周知のため、各種チラシ、パンフレット、報告書等を作成し、配布した他、事業毎に東京・大阪の記者クラブに資料を提供し、マスコミキャンペーンを実施した。
- ・各事業の理解促進・普及を図るためホームページやSNSに随時掲載した他、コスモス国際賞の受賞者のインタビュー映像を動画サイトで公開するなど、情報発信を行った。

(イ) 情報等の提供、その他普及啓発

- ・理念の理解と促進を図ると共に、協会の蓄積情報を発信するため協会情報誌『KOSMOS』（変形A5判24頁2,000部）の6号を発刊し、関係者に配付した。

また、7号は新型コロナウイルス感染症の影響により、発刊を延期した。

- ・今後開催が計画されている博覧会や各種イベント等の主催者に対し、博覧会や協会事業情報、写真等の提供を行った。

海外・国・地方自治体等—11件、企業・個人—7件

- ・各種行事等に別表6のとおり協賛・後援・会長賞の交付を行った。

(別表6)

催事名（開催時期）	開催場所	主催	名義等
2019年度大阪府花の文化園幼児・小中学生花の絵画展（R2.1.5～2.2）	大阪府立花の文化園 イベントホール （大阪府河内長野市）	大阪府、住友林業緑化・E-DESIGN 共同企業体	後援 会長賞
第23回咲くやフォトコンテスト（R1.11.26～R2.1.19）	咲くやこの花館 （大阪市鶴見区）	（一財）大阪スポーツみどり財団	協賛 会長賞
「大阪ばら祭 2019」（R1.5.10～5.12）	咲くやこの花館 （大阪市鶴見区）	関西ばら会・鶴見緑地スマイル5	後援 会長賞
第16回 2019 周防町通り「はなまつり」（R1.5.1～5.31）	周防町通りと大阪市立南小学校（大阪府中央区）	ヨーロッパ村周防町通り商店会	後援
水都おおさか森林の市 2018（R1.10.27）	近畿中国森林管理局・毛馬桜之宮公園周辺（大阪府北区）	水都おおさか森林づくり・木づかい実行委員会	後援

第74回日本おもと名品展 (R1.11.30～12.1)	上野グリーンクラブ (東京都台東区)	(公社) 日本おもと協会	後援 会長賞
「遊び場の安全を考える国際シンポジウム」(R1.10.8)	東京ドームホテル (東京都文京区)	(一社) 日本公園施設業協会	協賛
令和元年度「都市緑化月間」 (R1.10.1～10.31)	全国	国土交通省、都道府県、市町村	協賛
みどりのイノベーション推進プロジェクト発足記念～Green Hospitality OSAKA 国際シンポジウム～ (R1.11.6)	大阪商工会議所 (大阪市中央区)	みどりのイノベーション推進会議、(一社) テラプロジェクト	後援
2025 大阪・関西万博ランドスケープデザインコンペ (R1.9.27～R2.2)	(株) 公園マネジメント研究所 (大阪市中央区)	(一社) ランドスケープコンサルタンツ協会	後援
軽トラガーデンコンテスト (R1.11.16)	万博記念公園 (大阪府吹田市)	阪神造園建設業協同組合・(一社) 日本造園組合連合会大阪府支部	会長賞

## (5) 国際交流事業

### ア. 高校生のための生き物調査体験ツアーin 台湾

日本の高校生が台湾を訪問し、専門家の指導のもと、現地の高中生と合同で生き物の観察、調査を体験させる事業を実施した。

開催日：令和元年8月2日(金)～令和元年8月8日(木)6泊7日

場 所：台湾 - 台北市立動物園および東眼山自然教育センター

参加者：日本人高校生20名、台湾人高校生20名

講 師：秋山弘之(兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員)

太田英利 (                    //                    研究部長)

池田忠広 (                    //                    主任研究員)

布野隆之 (                    //                    研究員)

ほか台北市立動物園研究者4名

### イ. 国際園芸博出展協力

中国・北京で2019年4月29日から同年10月7日の会期で開催された北京国際園芸博覧会(テーマ:緑の生活・より良い生活)の日本国出展に関し、日本国政府の一員として、日本庭園並びに日本展示館の出展に参画し、庭屋一如のコンセプトのもと、伝統と新しい技術が融合した日本の園芸文化を広く発信した。

また、人と自然の調和を根底におく日中共通の園芸文化のあり方や、「緑」や園芸文化が社会に果たす役割をについて議論するため、中国と日本の専門家による国際シンポジウムを開催した。

#### 2019 北京園芸博覧会開催記念シンポジウム

日 時：令和元年 9 月 14 日（土）午後 1 時～5 時

場 所：清華大学建築学院ホール

参加者：約 200 名

次 第：開会挨拶 朱穎心（清華大学建築学院副院長・教授）

基調講演 1 涌井雅之（東京都市大学環境学部特別教授）

「自然と寄り添いながら暮らすー日本の風土から考える」

基調講演 2 李樹華（清華大学教授）

「中国と日本の両国における盆栽の芸術性に関する比較研究」

パネルディスカッション

コーディネーター 森本幸裕（京都大学名誉教授）

パネリスト 涌井雅之（東京都市大学環境学部特別教授）

李樹華（清華大学教授）

田中孝幸（東海大学農学部名誉教授）

加藤友規（京都造形芸術大学教授）

劉志成（北京林業大学教授）

李洪遠（南開大学教授）

#### ウ. 国際シンポジウム“自然は考えるのか？”

自然と人間との共生について認識を深め、参加者等にその成果を広めることを目的として、2018 年コスモス国際賞受賞者オギュスタン・ベルク博士らの参加を得て、パリにて国際シンポジウムを開催した

開催日及び場所：

令和元年 6 月 6 日（木）：ユネスコ（UNESCO）パリ本部

〃 7 日（金）：同上

〃 8 日（土）：パリ日本文化会館（Maison de la Culture du Japon à Paris）

出席者：2018 年コスモス国際賞受賞者オギュスタン・ベルク博士

コスモス国際賞委員会副委員長・京都大学総長山極壽一博士

総合地球環境学研究所の安成哲三所長 他

参加者数：約 100 名

#### 4. 調査研究・資料収集事業

##### 生物多様性等に関する調査

生物多様性協働フォーラムに関して、具体的な活動方針などについて関係先との連絡調整を行った他、SDGsに係る企業等の活動状況を調査した。

令和元年度

## Ⅱ. 庶務・管理

自 平成 31 年 4 月 1 日

至 令和 2 年 3 月 31 日

## 1. 理事会、評議員会等

### (1) 第100回理事会 令和元年6月11日(火)

開催場所：経団連会館カンファレンス(東京都千代田区)

決議事項：平成30年度事業報告並びに収支決算について

特定資産の取り崩しについて

定時評議員会の招集について

評議員会に提出する評議員候補者名簿(案)について

評議員会に提出する理事候補者名簿(案)について

出席等：決議に必要な出席理事の数5名、出席8名、欠席0名、監事出席2名

### (2) 第101回理事会 令和元年6月27日(木)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：会長(代表理事)、理事長(代表理事)、専務理事(業務執行理事)の選定について

出席等：提案書に対し、理事8名全員の書面による同意の意思表示を得た日をもって、理事会の決議があったものとみなされた。

### (3) 第102回理事会 令和元年7月22日(月)

開催場所：ステーションコンファレンス東京(東京都千代田区)

決議事項：2019年(第27回)コスモス国際賞受賞者の決定について

顧問の選任について

出席等：決議に必要な出席理事の数5名、出席7名、欠席1名、監事出席1名

### (4) 第103回理事会 令和元年12月9日(月)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：特定資産の取崩しについて

出席等：提案書に対し、理事8名全員の書面による同意の意思表示を得た日をもって、理事会の決議があったものとみなされた。

### (5) 第104回理事会 令和2年3月25日(水)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：令和2年度資産運用方針書について

令和2年度事業計画及び収支予算について

特定資産について

特定寄附金の募集に係る募金目論見書について

助成事業審査委員会委員の選任について

組織及び職制規程の改定について

出席等：提案書に対し、理事7名全員の書面による同意の意思表示を得た日をもって、理事会の決議があったものとみなされた。

(6) 第54回評議員会 令和元年6月27日(木)

開催場所：阪急グランドビル(大阪市北区)

決議事項：平成30年度事業報告及び収支決算書類の承認について

特定資産の取崩しについて

評議員の選任について

理事の選任について

出席等：決議に必要な出席評議員の数7名、出席8名、欠席5名、監事出席1名、理事出席2名

(7) 第55回評議員会 令和元年12月27日(金)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：特定資産の取崩しについて

出席等：提案書に対し、評議員13名全員の書面による同意の意思表示を得た日をもって、評議員会の決議があったものとみなされた。

## 2. 内閣府届出及び情報公開

令和元年6月に開催した理事会、評議員会における平成30年度事業報告及び収支決算、令和2年3月に決議の省略により開催した理事会における令和2年度事業計画及び収支予算、令和2年2月の理事1名の死去を、それぞれ内閣府に届出を行った。

また、定款、名簿、財務諸表等を協会事務所に据え置いたほか、協会ホームページにも掲載し、情報公開に努めた。

## 3. その他

第3者委員会として資産運用管理委員会を引き続き開催し、資産運用の業務状況を調査・確認し、代表理事に対して報告を行った。

協会組織は、代表理事2名、業務執行理事1名の体制のもと、2部3課制11名とした。

令和元年度

### Ⅲ. 財 務 諸 表

自 平成31年4月1日

至 令和2年3月31日

# 貸借対照表

令和2年3月31日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	99,339,602	103,455,369	△4,115,767
未収金	230,990	0	230,990
未収収益	54,620,895	76,588,360	△21,967,465
流動資産合計	154,191,487	180,043,729	△25,852,242
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産定期預金	860,344,700	860,344,700	0
基本財産投資有価証券	29,655,300	29,655,300	0
基本財産合計	890,000,000	890,000,000	0
(2) 特定資産			
記念基金	9,469,708,582	9,948,086,600	△478,378,018
退職給付引当資産	47,542,700	44,429,800	3,112,900
国際園芸博覧会出展事業積立資産	6,000,000	10,000,000	△4,000,000
特定資産合計	9,523,251,282	10,002,516,400	△479,265,118
(3) その他固定資産			
投資有価証券	2,979,898	4,222,660	△1,242,762
什器備品	8	8	0
その他固定資産合計	2,979,906	4,222,668	△1,242,762
固定資産合計	10,416,231,188	10,896,739,068	△480,507,880
資産合計	10,570,422,675	11,076,782,797	△506,360,122
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	11,198,452	12,255,413	△1,056,961
預り金	565,411	1,417,155	△851,744
賞与引当金	3,265,932	3,159,842	106,090
流動負債合計	15,029,795	16,832,410	△1,802,615
2. 固定負債			
退職給付引当金	47,542,700	44,429,800	3,112,900
固定負債合計	47,542,700	44,429,800	3,112,900
負債合計	62,572,495	61,262,210	1,310,285
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	10,000,000,000	10,000,000,000	0
基本財産運用益	90,000,000	90,000,000	0
特定資産運用益	800,000,000	800,000,000	0
特定資産評価差額金等	△530,291,418	△51,913,400	△478,378,018
指定正味財産合計	10,359,708,582	10,838,086,600	△478,378,018
(うち基本財産への充当額)	(890,000,000)	(890,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(9,469,708,582)	(9,948,086,600)	(△478,378,018)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
2. 一般正味財産	148,141,598	177,433,987	△29,292,389
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(6,000,000)	(10,000,000)	(△4,000,000)
正味財産合計	10,507,850,180	11,015,520,587	△507,670,407
負債及び正味財産合計	10,570,422,675	11,076,782,797	△506,360,122

# 正味財産増減計算書

平成31年4月1日 から 令和2年3月31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	3,367,111	7,321,679	△3,954,568
基本財産受取利息	3,367,111	7,321,679	△3,954,568
特定資産運用益	203,220,554	237,510,430	△34,289,876
記念基金受取利息	199,494,273	237,488,392	△37,994,119
特定資産受取利息	22,281	22,038	243
記念基金投資有価証券売却益	1,554,000	0	1,554,000
記念基金投資有価証券償還益	2,150,000	0	2,150,000
受取寄付金	4,000,000	4,000,000	0
受取寄付金	4,000,000	4,000,000	0
雑収益	0	30,000	△30,000
雑収益	0	30,000	△30,000
経常収益計	210,587,665	248,862,109	△38,274,444
(2) 経常費用			
事業費	172,974,348	190,047,900	△17,073,552
役員報酬	8,242,500	8,316,000	△73,500
給与手当	34,670,356	39,784,397	△5,114,041
法定福利費	5,996,594	6,714,348	△717,754
退職給付費用	1,618,708	1,855,142	△236,434
賃金	108,465	21,000	87,465
職員厚生費	121,801	327,228	△205,427
会議費	1,642,620	2,172,479	△529,859
旅費交通費	5,505,499	6,289,511	△784,012
通信運搬費	2,291,737	2,927,418	△635,681
消耗什器備品費	18,854	203,478	△184,624
消耗品費	1,379,249	1,539,275	△160,026
印刷製本費	1,496,700	2,137,416	△640,716
光熱水料費	2,382,605	2,177,245	205,360
修繕費	0	96,012	△96,012
役務費	37,408	8,316	29,092
委託費	27,520,480	22,222,789	5,297,691
賃借料	4,462,980	4,436,811	26,169
使用料	2,147,044	2,139,147	7,897
保険料	213,472	202,972	10,500
諸謝金	5,707,030	6,039,880	△332,850
租税公課	18,536	13,300	5,236
支払負担金・会費	13,123,899	23,563,675	△10,439,776
支払助成金	13,735,404	16,195,000	△2,459,596
支払手数料	362,075	514,133	△152,058

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
顕彰賞金	40,000,000	40,000,000	0
雑費	170,332	150,928	19,404
管理費	66,905,706	65,451,084	1,454,622
役員報酬	3,532,500	3,564,000	△31,500
給与手当	31,559,471	31,042,358	517,113
法定福利費	5,982,506	5,914,752	67,754
退職給付費用	1,494,192	1,474,258	19,934
賃金	46,485	9,000	37,485
職員厚生費	112,432	260,044	△147,612
会議費	703,980	931,063	△227,083
旅費交通費	2,359,499	2,695,504	△336,005
通信運搬費	982,173	1,254,607	△272,434
消耗什器備品費	8,081	87,205	△79,124
消耗品費	591,108	659,690	△68,582
印刷製本費	641,444	916,035	△274,591
光熱水料費	1,021,116	933,105	88,011
修繕費	0	41,148	△41,148
役務費	16,032	3,564	12,468
委託費	11,794,492	9,524,053	2,270,439
賃借料	1,912,706	1,901,490	11,216
使用料	920,163	916,778	3,385
保険料	91,488	86,988	4,500
諸謝金	2,445,870	2,588,520	△142,650
租税公課	7,944	5,700	2,244
支払負担金・会費	453,850	356,196	97,654
支払手数料	155,176	220,343	△65,167
雑費	72,998	64,683	8,315
経常費用計	239,880,054	255,498,984	△15,618,930
当期経常増減額	△29,292,389	△6,636,875	△22,655,514
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△29,292,389	△6,636,875	△22,655,514
一般正味財産期首残高	177,433,987	184,070,862	△6,636,875
一般正味財産期末残高	148,141,598	177,433,987	△29,292,389
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	4,000,000	4,000,000	0
受取寄付金	4,000,000	4,000,000	0
基本財産運用益	3,367,111	7,321,679	△3,954,568
基本財産受取利息	3,367,111	7,321,679	△3,954,568

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
特定資産運用益	241,526,035	363,524,632	△121,998,597
記念基金受取利息	200,737,035	239,697,732	△38,960,697
記念基金投資有価証券売却益	1,554,000	0	1,554,000
記念基金投資有価証券償還益	39,235,000	123,826,900	△84,591,900
特定資産評価損益等	△515,463,018	40,062,585	△555,525,603
記念基金投資有価証券評価損益等	△515,463,018	40,062,585	△555,525,603
一般正味財産への振替	△211,808,146	△251,019,411	39,211,265
一般正味財産への振替	△211,808,146	△251,019,411	39,211,265
当期指定正味財産増減額	△478,378,018	163,889,485	△642,267,503
指定正味財産期首残高	10,838,086,600	10,674,197,115	163,889,485
指定正味財産期末残高	10,359,708,582	10,838,086,600	△478,378,018
Ⅲ 正味財産期末残高	10,507,850,180	11,015,520,587	△507,670,407

# 正味財産増減計算書内訳表

平成31年4月1日 から 令和2年3月31日 まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,010,134	2,356,977	3,367,111
基本財産受取利息	1,010,134	2,356,977	3,367,111
特定資産運用益	142,254,392	60,966,162	203,220,554
記念基金受取利息	139,645,995	59,848,278	199,494,273
特定資産受取利息	15,597	6,684	22,281
記念基金投資有価証券売却益	1,087,800	466,200	1,554,000
記念基金投資有価証券償還益	1,505,000	645,000	2,150,000
受取寄付金	4,000,000	0	4,000,000
受取寄付金	4,000,000	0	4,000,000
経常収益計	147,264,526	63,323,139	210,587,665
(2) 経常費用			
事業費	172,974,348	0	172,974,348
役員報酬	8,242,500	0	8,242,500
給与手当	34,670,356	0	34,670,356
法定福利費	5,996,594	0	5,996,594
退職給付費用	1,618,708	0	1,618,708
賃金	108,465	0	108,465
職員厚生費	121,801	0	121,801
会議費	1,642,620	0	1,642,620
旅費交通費	5,505,499	0	5,505,499
通信運搬費	2,291,737	0	2,291,737
消耗什器備品費	18,854	0	18,854
消耗品費	1,379,249	0	1,379,249
印刷製本費	1,496,700	0	1,496,700
光熱水料費	2,382,605	0	2,382,605
役務費	37,408	0	37,408
委託費	27,520,480	0	27,520,480
賃借料	4,462,980	0	4,462,980
使用料	2,147,044	0	2,147,044
保険料	213,472	0	213,472
諸謝金	5,707,030	0	5,707,030
租税公課	18,536	0	18,536
支払負担金・会費	13,123,899	0	13,123,899
支払助成金	13,735,404	0	13,735,404
支払手数料	362,075	0	362,075
顕彰賞金	40,000,000	0	40,000,000
雑費	170,332	0	170,332

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
管理費	0	66,905,706	66,905,706
役員報酬	0	3,532,500	3,532,500
給与手当	0	31,559,471	31,559,471
法定福利費	0	5,982,506	5,982,506
退職給付費用	0	1,494,192	1,494,192
賃金	0	46,485	46,485
職員厚生費	0	112,432	112,432
会議費	0	703,980	703,980
旅費交通費	0	2,359,499	2,359,499
通信運搬費	0	982,173	982,173
消耗什器備品費	0	8,081	8,081
消耗品費	0	591,108	591,108
印刷製本費	0	641,444	641,444
光熱水料費	0	1,021,116	1,021,116
役務費	0	16,032	16,032
委託費	0	11,794,492	11,794,492
賃借料	0	1,912,706	1,912,706
使用料	0	920,163	920,163
保険料	0	91,488	91,488
諸謝金	0	2,445,870	2,445,870
租税公課	0	7,944	7,944
支払負担金・会費	0	453,850	453,850
支払手数料	0	155,176	155,176
雑費	0	72,998	72,998
経常費用計	172,974,348	66,905,706	239,880,054
当期経常増減額	△25,709,822	△3,582,567	△29,292,389
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△25,709,822	△3,582,567	△29,292,389
当期一般正味財産増減額	△25,709,822	△3,582,567	△29,292,389
一般正味財産期首残高	44,439,503	132,994,484	177,433,987
一般正味財産期末残高	18,729,681	129,411,917	148,141,598
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	4,000,000	0	4,000,000
受取寄付金	4,000,000	0	4,000,000
基本財産運用益	1,010,134	2,356,977	3,367,111
基本財産受取利息	1,010,134	2,356,977	3,367,111
特定資産運用益	169,068,228	72,457,807	241,526,035
記念基金受取利息	140,515,928	60,221,107	200,737,035
記念基金投資有価証券売却益	1,087,800	466,200	1,554,000

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
記念基金投資有価証券償還益	27,464,500	11,770,500	39,235,000
特定資産評価損益等	△360,824,112	△154,638,906	△515,463,018
記念基金投資有価証券評価損益等	△360,824,112	△154,638,906	△515,463,018
一般正味財産への振替	△148,118,862	△63,689,284	△211,808,146
一般正味財産への振替	△148,118,862	△63,689,284	△211,808,146
当期指定正味財産増減額	△334,864,612	△143,513,406	△478,378,018
指定正味財産期首残高	7,562,660,626	3,275,425,974	10,838,086,600
指定正味財産期末残高	7,227,796,014	3,131,912,568	10,359,708,582
Ⅲ 正味財産期末残高	7,246,525,695	3,261,324,485	10,507,850,180

## 財務諸表に対する注記

### 1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

①満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)によっている。

②満期保有目的の債券以外の有価証券

期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

その他の固定資産

什器備品…定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金

職員の退職手当の支給に備えるため、職員の退職手当支給規程に基づき、  
期末要支給額を計上している。

賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

### 2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	860,344,700	860,000,000	860,000,000	860,344,700
投資有価証券	29,655,300	0	0	29,655,300
小 計	890,000,000	860,000,000	860,000,000	890,000,000
科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
記念基金	9,948,086,600	3,425,160,000	3,903,538,018	9,469,708,582
退職給付引当資産	44,429,800	3,112,900	0	47,542,700
国際園芸博覧会出展 事業積立資産	10,000,000	6,000,000	10,000,000	6,000,000
小 計	10,002,516,400	3,434,272,900	3,913,538,018	9,523,251,282
合 計	10,892,516,400	4,294,272,900	4,773,538,018	10,413,251,282

### 3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	860,344,700	(860,344,700)	( 0)	-
投資有価証券	29,655,300	(29,655,300)	( 0)	-
小 計	890,000,000	(890,000,000)	( 0)	( 0)
特定資産				
記念基金	9,469,708,582	(9,469,708,582)	( 0)	( 0)
退職給付引当資産	47,542,700	-	-	(47,542,700)
国際園芸博覧会出展 事業積立資産	6,000,000	-	(6,000,000)	( 0)
小 計	9,523,251,282	(9,469,708,582)	(6,000,000)	(47,542,700)
合 計	10,413,251,282	(10,359,708,582)	(6,000,000)	(47,542,700)

### 4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位:円)

科 目	品 名	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	花博会場模型	10,036,290	10,036,289	1
	コスモス国際賞顕彰品レプリカ	2,200,000	2,199,999	1
	ラフレシア(花)標本	4,506,293	4,506,292	1
	DVDレコーダー	165,000	164,999	1
	液晶テレビ	593,620	593,619	1
	ノートパソコン	193,200	193,199	1
	デジタルビデオカメラ	106,500	106,499	1
	プロジェクター	147,000	146,999	1
合 計		17,947,903	17,947,895	8

### 5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
基本財産			
第328回利付国債	29,655,300	30,661,440	1,006,140
小 計	29,655,300	30,661,440	1,006,140

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
特定資産及びその他固定資産			
記念基金及び投資有価証券			
第3回日本電産社債	100,342,546	101,750,000	1,407,454
第20回みずほ銀行劣後債	100,948,682	102,310,000	1,361,318
第41回阪急阪神HD社債	101,688,670	103,820,000	2,131,330
小 計	302,979,898	307,880,000	4,900,102
合 計	332,635,198	338,541,440	5,906,242

## 6 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単価:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息	3,367,111
記念基金受取利息	200,737,035
記念基金投資有価証券売却益	1,554,000
記念基金投資有価証券償還益	2,150,000
受取寄付金	4,000,000
合 計	211,808,146

## 7 その他公益法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産増減の状況を明らかにするために必要な事項

金融商品の状況に関する事項

### 1. 金融商品に対する取組方針

当法人は、法人運営の財源の大部分を運用益によって賄うため、債券、デリバティブ取引を組み込んだ複合金融商品により資産運用する。

当法人が利用するデリバティブ取引は、デリバティブを組み込んだ複合金融商品(仕組債、仕組預金)のみであり、運用限度枠を設けている。なお、投機目的のデリバティブ取引は行わない方針である。

### 2. 金融商品の内容及びそのリスク

記念基金に含まれる投資有価証券は、債券、デリバティブ取引を組み込んだ債券(仕組債)が含まれており、発行体の信用リスク、市場リスク(金利の変動リスク、為替の変動リスク及び市場価格の変動リスク)にさらされている。なお、当該投資有価証券には、リスクが高いものとして、中途解約が著しく制約されていることにより、満期到来までに資金化することが困難な流動性に乏しい債券(仕組債)4,454百万円が含まれている。

### 3. 金融商品のリスクに係る管理体制

#### ①資産運用規程に基づく取引

金融商品の取引は、当法人の資産運用管理規程及び資産運用基準に基づき行う。

#### ②信用リスクの管理

債券及び仕組債については、発行体の信用情報や時価の状況を定期的に把握し、理事会に報告する。

## 附属明細書

### 1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記3. に記載している。

### 2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	3,159,842	3,265,932	3,159,842	0	3,265,932
退職給付引当金	44,429,800	3,112,900	0	0	47,542,700

# 財産目録

令和2年3月31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額		
(流動資産)	現金預金					
	現金	手元保管	運転資金として	139,222		
	普通預金	りそな銀行大阪公務部	運転資金として	89,083,616		
		三井住友銀行大阪公務部	運転資金として	7,541,181		
		三菱UFJ信託銀行大阪法人営業部	運転資金として	2,575,363		
		三井住友信託銀行大阪本店営業部	運転資金として	220		
			現金預金合計	99,339,602		
	未収金		令和元年度助成金返金等	230,990		
	未収収益		公益目的事業及び管理目的の財源として使用する債券等の未収利息	54,620,895		
流動資産合計				154,191,487		
(固定資産)	基本財産	定期預金	りそな銀行大阪公務部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	344,700	
				うち公益目的保有財産である	103,410	
				うち管理目的の財源として使用する財産である	241,290	
			大和ネクスト銀行バンテン支店	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	660,000,000	
				うち公益目的保有財産である	198,000,000	
				うち管理目的の財源として使用する財産である	462,000,000	
			投資有価証券	三井住友信託銀行大阪本店営業部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	200,000,000
				うち公益目的保有財産である	60,000,000	
				うち管理目的の財源として使用する財産である	140,000,000	
				第328回利付国債	満期保有目的で保有し、運用益を公益目的の事業及び管理目的の財源として使用している。	29,655,300
				うち公益目的保有財産である	8,896,590	
				うち管理目的の財源として使用する財産である	20,758,710	
			基本財産合計	890,000,000		
	特定資産	記念基金			9,469,708,582	
		投資有価証券	関西国際空港20年債他	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	8,964,114,582	
				うち公益目的保有財産である。	6,274,880,207	
				うち管理目的の財源として使用する財産である。	2,689,234,375	
			第3回日本電産社債他	満期保有目的で保有し、運用益を公益目的の事業及び管理目的の財源として使用している。	300,000,000	
				うち公益目的保有財産である。	210,000,000	
うち管理目的の財源として使用する財産である。				90,000,000		
普通預金	りそな銀行大阪公務部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	205,594,000			
		うち公益目的保有財産である。	143,915,800			
		うち管理目的の財源として使用する財産である。	61,678,200			

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
その他固定 資産	退職給付引当資産			47,542,700
	普通預金	りそな銀行大阪公務部	退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	37,542,700
	信託受益権	三井住友銀行大阪公務部	退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	10,000,000
	国際園芸博覧会出 展事業積立資産			6,000,000
	普通預金	三井住友銀行大阪公務部	公益目的保有財産であり、北京国際園芸博覧会事業の財源として管理している。	6,000,000
			特定資産合計	9,523,251,282
	投資有価証券	第3回日本電産社債他 (オーバーパー部分)	公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。 うち公益目的保有財産である。 うち管理目的の財源として使用する財産である。	2,979,898 2,085,929 893,969
什器備品	花博会場模型等	公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	8	
固定資産合計				10,416,231,188
資産合計				10,570,422,675
(流動負債)	未払金	令和元年度助成事業対象者に対する未払額等	公益目的事業及び管理目的の業務等未払い分	11,198,452
	預り金	役職員に対するもの	源泉徴収税等	565,411
	賞与引当金	職員に対するもの	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する職員の賞与の引当金である。	3,265,932
流動負債合計				15,029,795
(固定負債)	退職給付引当金	職員に対するもの	職員8名に対する退職金の支払いに備えたもの	47,542,700
固定負債合計				47,542,700
負債合計				62,572,495
正味財産				10,507,850,180

令和元年度

## IV. 監査報告書

自 平成31年4月1日

至 令和2年3月31日

## 監査報告書

令和2年5月21日

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会  
会長 御手洗 富士夫 様

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

監事

堀井 良 股

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

監事

北山 諒

私たち監事は、平成31年4月1日から令和2年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

### 1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意志疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、理事会その他必要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

### 2. 監査意見

#### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

#### (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上